

出会

No. **88** 2023. 4. 5

キリスト教委員会



上：「八重桜」（右：循環農学類 統計学研究室 毛利泰大）

本学構内C2号館前のローンに咲く「八重桜」の美しさに目を奪われます。満開になった今年の桜の美しさを友達と一緒に見る経験をして欲しいと願いつつ、旧約聖書のコヘレトの言葉の一節を贈ります。

「ひとりよりもふたりが良い。共に苦勞すれば、その報いは良い。」
(コヘレトの言葉 4章9節)



近親憎悪から平和へ（エフェソの信徒への手紙 2章14節） —— ロシアのウクライナ侵攻とキリスト教の罪 ——

宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

「新入生へのメッセージとKGKの活動内容について」

環境共生学類2年 大久保謙信

「イエスとは何者か」「統一協会」の問題をめぐる キリスト教について考える 聖書：マルコによる福音書 8章27～30節

日本キリスト教団名寄教会牧師・名寄幼稚園園長 日向 恭司

近親憎悪から平和へ (エフェソの信徒への手紙 2章14節)

—— ロシアのウクライナ侵攻とキリスト教の罪 ——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

¹⁴なぜなら、キリストこそがわたしたちの平和であり、両者をひとつにし、その肉において隔ての中垣を、すなわち敵意を打ち壊したからです。

(エフェソの信徒への手紙 2章14節 [私訳])

ユダヤ教からキリスト教へ

キリスト教はイエスが弟子たちと紀元30年頃に始めた活動に遡りますが、それは「ユダヤ人＝ユダヤ教徒」によるユダヤ教内の革新運動という性格を持っていました。この運動がユダヤ教から分離してキリスト教へと変貌を遂げるのは、1世紀末から2世紀にかけてのことだったと考えられます。

その歴史的背景としては、70年にローマがエルサレムとその神殿を破壊したことが決定的に重要です。つまり、第一次ユダヤ戦争(66～73年)を契機として、この革新運動をも含むユダヤ人は地中海東岸のパレスティナから地中海世界の諸都市にディアスポラ(離散者)として移住せざるを得なくなり、それに伴って教会の中心もまたエルサレムのユダヤ人キリスト教会から地中海諸都市の異邦人キリスト教会に移行せざるを得なかったということです。

異邦人キリスト教徒とユダヤ人キリスト教徒の対立

エフェソ書はキリスト教がユダヤ教から分離独立していく過程の1世紀末にパウロの名によって著されました。この書簡には地中海世界に進出したキリスト教がユダヤ教という民族宗教からキリスト教という世界宗教へと変容する途上において、異邦人キリスト教徒とユダヤ人キリスト教徒の間に生じていた軋轢が敵意として立ち現れて

いる状況が反映されています。エフェソ書の著者はこのような対立関係に陥った両者を和解させることをひとつの目的としてこの手紙を書いたのです。

そして、このテーマが最も明瞭に表されているのが、冒頭に引用した2章14節が含まれるエフェソ書2章11～22節です。このテキストにおいて、エフェソ書の著者は異邦人キリスト教徒とユダヤ人キリスト教徒に対して、イエスが「その肉において隔ての中垣を、すなわち敵意を打ち壊したからです」と訴えかけています。これはイエスの死を人類の罪のための贖罪死として捉えるだけではなく、イエスの死が敵対する者たちの間に立ちはだかる「隔ての中垣」である「敵意」をも打ち壊し、和解させるためのものであるとして、両者を説得しようとする試みです。

近親憎悪

では、なぜ異邦人キリスト教徒とユダヤ人キリスト教徒は互いに敵意を持ってしまったのでしょうか。異邦人キリスト教徒は、ユダヤ教の伝統を継承するユダヤ人キリスト教徒が新参者である自分たちを見下していると感じてしまうことがあったようです。その反対に、ユダヤ人キリスト教徒は、異邦人キリスト教徒がユダヤ教の伝統を古くさいものとして無碍にしていると感じていたようです。このことから、双方に不満が噴出し、それが敵意となって渦巻い

てしまっていたのです。

この状況は両者が異邦人とユダヤ人として、互いを遠い存在としていたなら生じることすらなく、双方が同じ神を信じる近い存在になっていたがゆえに、互いの考えや習慣の違いが目についてしまうようになったことで生じてしまったと言えます。全く異なる遠い相手であれば、端から相手は違うものだと思えるのに、近い関係であればこそ、僅かな違いも許せないのです。つまり、これは近親憎悪だったのです。

ロシアのウクライナ侵攻とキリスト教の罪

2022年2月24日に開始したロシアのウクライナ侵攻は長期化の様相を呈しています。ウクライナの人々の恐怖がどれほどかと想像しても、その現実を容易に知ることなどできません。また、両国の兵士たちは好き好んで戦争をしているわけではありませんし、安全な場所から指令を出す為政者たちが生命の重さよりも国家の威信を重視する状況に怒りと悲しみが込み上げてきます。

このような為政者たちの無用な虚栄心はまさに人間の罪と言えるものです。だが、それ以上にロシア正教会のモスクワ総主教キリル1世が、プーチン大統領の長年の盟友として、ウクライナ侵攻を強烈に後押ししていることは極めて重い罪だと言わざるを得ません。

酪農学園とキリスト教の取り組み

2022年3月2日に酪農学園は大学長と高校長の連名で「ロシアのウクライナ侵攻の中止、両国の平和を求める」声明を出し、3月10日には大学キリスト教委員会が「ロシアのウクライナ侵攻の中止、停戦の合意、両国の平和を求める声明」を公にしました。また、4月25日～5月20日の期間に学園としてウクライナ支援募金を実施しています。

個々の支援は小さなものですが、武力によらない支援の輪を広げていくことには大きな意義があります。酪農学園が関係する

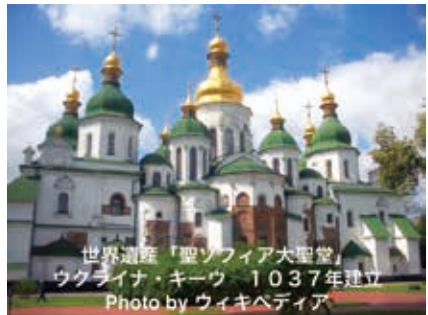
日本キリスト教団も平和に向けた働きかけを続けていますが、2022年3月10日に日本ハリストス正教会が「愛と平和の希求」と題する声明を公にしていることは特に重要です。

近親憎悪から平和へ

ロシアのウクライナ侵攻は古代・中世から引きずっている東欧と西欧の文化的対立がその背景にあります。だが、この対立は双方が互いを遠い存在として認識しているゆえに、冷戦に象徴される静かな対立に留まっていた面があることは否めません。だが、それに対してウクライナが西側世界を象徴するNATOに加盟することは、それこそ東側世界に対する裏切りや寝返りに映り、まさに近親憎悪として両国の間に敵意が剥き出しになったと言えるのです。

エフェソ書2章14節は「**なぜなら、キリストこそがわたしたちの平和であり、両者をひとつにし、その肉において隔ての中垣を、すなわち敵意を打ち壊したからです**」と訴えることで、近親憎悪を克服し、平和に生きるように促しています。この聖書の言葉に最も謙虚に耳を傾ける必要があるのは、ロシア正教会とウクライナ正教会を仰ぐ両国の為政者たちであり、そして両正教会の総主教たちではないでしょうか。

キリスト教主義掲げる酪農学園大学もまた、在学生と教職員の思いとして、新入生のみなさんと一緒に、ウクライナとロシアが近親憎悪から平和へと至る道にその一步を踏み出せるよう祈りつつ尽力していきたいのです。



「新入生へのメッセージとKGKの活動内容について」



環境共生学類2年 大久保謙信

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから新しい生活が始まって、

新しい仲間達との出会いがあったりなど、楽しい大学生活が待っていることでしょう。私が皆さんに伝えておきたいことが1つあります。それは大学生活はものすごくあつという間だということです。まだ始まって1年しか経っていませんが、この1年は本当にあつという間で、残りの3年間は一瞬で終わるんだと痛感しました。

私はこの1年過ごしてきましたが、やりたいことがあっても自分から行動せず怠けた生活を過ごし、結局やらなかったということがよくありました。このようなことが続くと、今一番時間があるこの大学生活で何も経験することなく時間が過ぎていってしまうのは勿体無いと感じ、今年からは自分から行動していきたいと思っています。皆さんものんびり構えて大学生活を送っていると、時間だけが過ぎていき、何も経験を積めずに卒業してしまいます。ですから、少しでも自主的に行動し、たくさん経験を積んで、悔いのない大学生活を送って下さい。そして、

友達と遊んだり、どこか出掛けに行ったりなど、大学生の時にしかできないことをたくさんして、楽しい日々を送って下さい。

私は現在KGKというサークルに所属しています。そもそもKGKってどういうサークルなのか知らない人達が多くいるかもしれません。KGKとはキリスト者学生会を略した呼び名で、主に聖書を読んで、その箇所はどういう意味なのかを毎回テキストに沿って皆んなで考えたり、話し合ったりする「聖書研究」ということを行っています。

これだけ言われると、堅いイメージを持つ人達が多少いるかもしれませんが、確かに、真面目な部分はありますが、実際は皆んなでアイスブレイクをしたり、雑談をしたり、活動が終わった後はご飯を食べに行ったりなど、結構ゆるく、楽しく活動しています。そして何より、そこにいる部員やスタッフの皆さんはとても優しく、良い人達ばかりです。

私は人見知りで、初対面の人と話すとき緊張したり、その場に慣れるまで時間が掛かることがあります。なので、最初にKGKの活動に参加した時は緊

張しっぱなしで、あまり話すことができませんでした。けれど、その人達からは私を歓迎してくれたり、優しく接してくれたり、たくさん話しかけてくれたりしてもらいました。そのおかげで、すぐに打ち解けることができ、今ではすっかりそこに馴染んでいます。また、このKGKというサークルはこ

の大学だけではなく、他の大学にもあります。なので、他の大学との交流があり、色々な大学の人達と仲良くなることができます。

KGKは楽しいし、雰囲気もとても良い場所なので、もし興味があれば是非参加して見て下さい。



『イエスとは何者か』

「統一協会」の問題をめぐるキリスト教について考える 聖書：マルコによる福音書8章27～30節

日本キリスト教団名寄教会牧師・名寄幼稚園園長 日向 恭司



キリスト教とは何か

昨年、わたしが宗教主任を務めている名寄幼稚園の先生から「わたしはキリスト教信仰は持っていないけれど“キリスト教とは何か”ということを知りたくて聞いてみました。本来はとも一言では答えられない難しい質問でしたが、わたしなりの端的な答えを出してみました。それは、「キリスト教は“イエスとは何者か”ということを追求しながら、イエスと共に生きる宗教である。」ということです。

イエスがどういう存在かという本質的なことだけではなく、どういう時に喜び、どういう時に怒り、どんな人々に優しく、どんな人々に厳しいかという人格を知ることでも大切なことです。それは新約聖書の福音書に記されています。

人は何と言っているか

福音書の中でイエスは弟子たちに「人々はわたしのことを何者だと言っているか」と尋ね、弟子たちは「洗礼者ヨハネだという人や、エリヤだという人や、預言者の1人だという人たちがいます。」と答えました。現在は一般的にどのように言われているのでしょうか。興味のある方はネットで検索してみてください。

次にイエスは弟子たちに「ではあなたがたはわたしを何者だと言うか」と聞きました。それに対してペトロは「あなたはメシヤです。」と答えています。「メシヤ」というのは一般的に「救世主」と訳されます。「イエスは救い主」というのは、キリスト教の信仰の根幹にあたる部分です。

ただペトロの「あなたはメシヤです。」

という答えは、その意味を少し深掘りしてみると必ずしも正解とは言えません。ペトロがそれを告白した時代、「メシヤ」というのは「政治的にローマ帝国からユダヤ民族を解放してユダヤ人の国を作る新しい王」であると認識されていたからです。イエスの働きと生涯は全く違う歩みでした。ですから、わたしが最も大切な事として皆さんに伝えたいのは、ペトロが答えた「イエスはメシヤです」という言葉ではなく、イエスが「あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」と弟子たちに尋ねた、その“問い”です。

あなたは何と言うか

もし皆さんに「あなたはイエスを何者だと言うのか」、「あなたにとってはイエスとはどういう存在か」と問われたとしたら、皆さんはどう答えるでしょうか。キリスト教は、その問いに対して他人がどう言っているかということではなく、辞書にどう書かれているかではなく、「自分は思うのか」という答えを探す宗教であると思うのです。

「統一協会」について

さて、昨年から社会を騒がせている「統一協会」のことに触れておきたいと思います。わたしは37年前大学3年の春にキリスト教の洗礼を受けましたが、そのきっかけは統一協会でした。大学受験の予備校に通うために田舎から札幌に出てきたばかりの7月くらいだったと記憶していますが、下宿に統一協会の方が訪問してきて世界情勢や人生についてのセミナーがあるから来てみないかと誘われました。初めは「宗教ではない。世界情勢や人生についてのセミ

ナーです。」と聞いたので、興味をもって参加してみました。

詳しい話しは省略して結論を言うと、自分が中学・高校時代にとっくにあきらめていた「戦争の無い平和な世界」を本気で実現させようとしている人たちがそこにいると思いました。その思想だけでなくそこにいた人たちが心から信頼できる人たちであると感じ、ルームシェアをしながら大学2年の終わりまで約2年半信者として活動しましたが、本当のキリスト教会との出逢いから統一協会を脱会することができ、それ以来キリスト教信仰を持って生きてきました。

統一協会の教えの怖さは実際に聴いてみるとそれなりに説得力があり、誰でも信じてしまう可能性があるということと、その教えを学んでいくうちに「自分で考えること」「自分で判断すること」「自分で決めること」にこそ罪があると思われ、その教

えを信じる以外に道はないという結論に導かれていくことです。

自分自身の答えを

「信仰」というのはどこまでも自由意志によって選ぶものです。「あなたはどうか信じるのか?」という問いに対して、「何も信じない」ことも含めて、各自が自分の答えを探し続けることができるのです。

酪農学園大学は「キリスト教主義」を掲げる大学ですが、言うまでもなく皆さんにキリスト教信仰が強制されることはありません。でも、せっかくこの大学と出逢ったからには、ここにいる間だけでも自分にとって「キリスト教」とは何か、自分にとって「イエス」とはどういう存在かということについて、誰かが出した答えではない、自分自身の答えを探してみただけだと願っています。



大学礼拝への招待

酪農学園大学はキリスト教主義大学として、創立以来大学礼拝を大切にしてきました。大学礼拝は建学の精神である「三愛主義」（神を愛し、人を愛し、土を愛す）を経験する実学教育の場であり、授業期間中の毎週火曜日の2時限（午前10時40分～12時10分）は大学礼拝の時間に充てられており、学生、教職員が出席できる



【学生で賑わうコロナ前の対面時の大学礼拝】



【コロナ後のひっそりとした黒澤記念講堂】

よう、この時間には授業等が入らないように配慮されています。新型コロナウイルス感染防止対策として、2020～2022年度の3年間、通常の対面の礼拝を中断し、オンデマンドの動画配信によるリモート礼拝を実施してきましたが、2023年度から大学礼拝はクラス分けを行ったうえで対面に戻し、リモート礼拝とのハイブリッド形式で行います。新入生だけではなく、対面礼拝を経験していない在学生にも対面での礼拝の機会を設けます。感染防止対策も必要となります。引き続きご理解とご協力をお願いします。新入生のみなさんが積極的に出席してくださることで、黒澤記念講堂が学生でいっぱいになることを願いつつ、大学礼拝にご招待いたします。

(宗主任 小林昭博)

あ と が き

『出会い』88号（入学式号）をお届けします。酪農学園大学はプロテスタントに属するキリスト教主義大学であり、『出会い』のメッセージにもありますように、平和教育や人権教育を大

切にし、カルトの問題にも細心の注意を払ってきました。心配なことがあるときには、遠慮なく学生支援課、アドバイザーの先生、宗教主任に相談してください。

(A.K.)

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011-386-1111 (代表)



酪農学園大学は、2020年度（公対）日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



(酪農学園大学公式サイト)